

案件概要書

2014年4月22日

国際協力機構中東・欧州部中東第二課

1. 案件名（国・地域名）

国・地域名：パレスチナ自治政府

案件名：ジェリコ・ヒシャム宮殿遺跡整備計画（Rehabilitation of Hisham's Palace in Jericho）

2. 事業の背景と必要性**(1) 当該国・地域における観光セクターの開発実績（現状）と課題**

パレスチナ自治区には観光資源となりうる文化遺産が多数存在するが、イスラエルによる長期間の占領や文化遺産を開発・保護するための資金や人材の不足のため、観光資源として十分活用されるに至っていない。

ジェリコ市にあるヒシャム宮殿はウマイヤ朝時代（8世紀）の初期イスラム建築の代表的な文化遺産で、内外の多くの観光客が訪れる観光名所となっている。しかし、最大の見どころである単体では中東最大（約900平米）と言われる大浴場のモザイク床は、保護のため特殊ビニールと厚い砂で覆われており鑑賞できない。近年、ヒシャム宮殿への訪問客が増加するにつれ、観光客がモザイク床を見るために、許可なく保護ビニールと砂を掘り起こす事例も報告されている。このような事態が続くと歴史的価値の高いモザイク床そのものが劣化することから、適切な保護設備の整備が急務とされている。同時に、モザイク床を見学できる適切な展示設備を整備し、より多くの観光客を惹きつけることが期待されている。

(2) 当該国・地域における観光セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

パレスチナ自治政府は、その「開発計画（National Development Plan）」において、観光セクターにおける重要な課題として遺跡、特にヒシャム宮殿の保護を挙げている。本事業は、ジェリコ市にあるウマイヤ朝時代の遺跡であるヒシャム宮殿において、大浴場のモザイク床の保護施設を設置するものである。

(3) 観光セクターに対する我が国の援助方針

対パレスチナ自治区国別援助方針における重点分野として「持続的な経済成長の促進」が掲げられ、本事業は当分野の開発課題である「経済開発」に対応する「観光開発」プログラムに位置づけられる。観光開発プログラムでは、世界最古の都市とされるジェリコをモデル地域とし、観光街づくりを推進する体制及びインフラの整備を目指すこととしている。また、観光セクターは2010年の日・パレスチナ・ハイレベル協議において定めた重点7分野のうちの一つである。このような中 JICA は、「官民連携による持続可能な観光振興プロジェクト」（フェーズ1：2009-2012年、フェーズ2：2013-2016年）等技術協力による支援を実施している。こうした取り組みはパレスチナの住民が歴史と文化を理解し、パレスチナ人としての自信と誇りをもつことを助けるものである。

(4) 他の援助機関の対応

USAID がヒシャム宮殿の駐車場やゲート等周辺インフラを整備した。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本プロジェクトは、ジェリコ市・ヒシャム宮殿遺跡において、大浴場モザイク床の保護施設を設置することにより、歴史的な文化遺産の保護及び一般公開を両立し、もって同地域の観光客への誘致や観光振興に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ジェリコ市ヒシャム宮殿遺跡

(3) 事業概要

- 1) 土木工事：モザイク床の保護施設設置、展示機材
- 2) ソフトコンポーネント：住民への啓発活動
- 3) コンサルティングサービス：設計・監理

(4) 事業実施体制

事業実施機関：パレスチナ観光遺跡庁

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類： B
- ② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上、セクター特性、事業特性、及び地域特性に鑑みて、環境への望ましくない影響が重大でないと判断されるため。

2) 貧困削減促進等： 協力準備調査にて確認

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： 現在実施中の観光技プロ「官民連携による持続可能な観光振興プロジェクトフェーズ2」と連携し、周辺の観光開発・振興に貢献する。

(7) その他特記事項： 特になし

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

スリランカ国「シーギリヤにおける地域主導型観光振興プロジェクト」の評価では、計画通りの職員配置が遅れたことが事業の効率性を妨げたことが指摘されている他、インド国「アジャンタ・エローラ遺跡保護・観光基盤整備事業」の事後評価において、遺跡保存事業自体を重要な人材育成の機会としてとらえることが事業の持続性にとって必要であることや、多岐のセクターにまたがる観光振興プロジェクトにおいては、セクター間の調整を考慮し事業実施期間を設定する必要がある点が指摘されている。

(2) 本事業への教訓

本事業では、過度な人員配置無く運営・維持管理できるシステムを検討するとともに、遺跡保存事業における人材育成の機会（学芸員等）についても検討する。

以上

[別添資料]ジェリコ・ヒシャム宮殿遺跡整備計画

